

# 第10回 健康づくり懇話会例会が開催

## 企業が抱えている 健康管理上の課題を指摘

健康づくり懇話会の第10回例会が、2月4日、東京・市谷のホテルで開かれた。例会には、事業所や健保組合の健康管理担当者、本会の成人保健事業の担当者らあわせて約120人が参加し、活発な情報交換が行われた。例会では、下村労働衛生コンサルタント事務所の下村洋一所長(写真)による特別講演「今、求められる企業の健康管理とメンタルヘルスの実際」や、聖マリアンナ医科大学の須賀万智医師による「地域・職域診断サービス 職域の健康対策における活用」の紹介などが行われ、充実した会となった。

健康づくり懇話会副会長(東京都厚生連)の関あいつに続いて、小池敏夫会長(日本情報機器健保組合)があいさつに立ち、次のように述べた。

「健康管理を取り巻く情勢が大きく変化し、それに対する積極的、効率的な取り組みが求められている。懇話会では、今後も職場の健康管理に携わっている皆様のお役に立つようなホットな情報を提供したいと考えている」。

また、特別講演を行った下村所長は、長引く不況や昨今の就労形態の多様化などにより、職域の健康管理上の課題が複雑化し、企業の責任が重くなってきているとして、「健康づくりへの取り組みは、単なる福利サービスにとどまらず、生産性の低下や致命的な事故の予防といった企業のリスクマネジメントにつながる」と述べ、その重要性を指摘した。



そのうえで、下村所長は「企業が抱える健康管理上の課題を解決するためのポイント」として、

「健康づくりへの取り組みは、単なる福利サービスにとどまらず、生産性の低下や致命的な事故の予防といった企業のリスクマネジメントにつながる」と述べ、その重要性を指摘した。

そのうえで、下村所長は「企業が抱える健康管理上の課題を解決するためのポイント」として、

として、社員の特性に応じた管理、深い夜・夜勤の健康管理、安全配慮義務を基本にした新しい健康管理、過重労働・過労死対策、健康診断、快適職場づくり、メンタルヘルス対策、一元的な健康管理に向けた体制づくり、などをあげ、それぞれの項目について事例やトピックスを交えた詳細な解説を行った。

このほか今回の例会では、須賀医師が、予防医学事業中 中央と聖マリアンナ医科大学

## 産業保健フォーラム IN TOKYO 2005 が開催

東京労働局、東京労働基準協会連合会、東京産業保健推進センターが主催して毎年開かれていた「産業保健フォーラム IN TOKYO 2005」が2月9日、東京・千代田区の九段会館で開かれた。今年のテーマは「健康文化

の形成をめざして」。フォーラムでは、養老孟司東京大学名誉教授による講演「『社会の病』を解明する」のほか、馬杉則彦湯河原厚生年金病院院長の「過重労働・メンタルヘルス 検討結果と法改正」、加藤隆康トヨタ自動車安全衛生推進部長の「これからの働く人の健康づくりのあり方と企業対応」が行われた。

このほか、産業保健セミナーや相談コーナーなど、産業保健の現場で役立つさまざまなノウハウや具体例が取り上げられた。なお、本会からは相談コーナーの健康づくりの指導に健康運動指導士を派遣した。

## 多摩市教委が小児生活習慣病 予防健診の事後相談会を実施

多摩市教育委員会は、健康教育を主眼とした小児期からの生活習慣病予防健診を、都内の児童生徒を対象に1987年から実施している。

要、あるいは「定期的観察が必要」とされた児童生徒とその保護者を対象に、事後相談会を2月19日に同市の健康センターで実施した。

事後相談会では、個別相談のかたちで医学的指導と栄養学的指導を、集団指導として健康運動指導を実施した(写真)。また、こじした指導を行ったための相談員として、学校医5人、管理栄養士8人、学校栄養士2人のほか、本会から健康運動指導士2人が参加した。

## 腎臓・糖尿病検診 打ち合わせ会を開く 本会

新年度のスタートとともに、全国の学校で児童生徒の健康診断が始まる。本会では、学校健診を円滑に実施して関係者間の共通理解をはかるための打ち合わせ会を毎年この時期に開いているが、このうち腎臓・糖尿病検診の打ち合わせ会を3月4日、東京・市谷の保健会館別館で開催した。

また、本会では3年前より、検診日程の関係でプール授業が始まる6月上旬までに暫定診断が出ない地域では、できる限りプールを制限しないための一時的な措置として、3次検診で専門医による診察を受けた段階でプールの可否についての暫定的な管理区分を

出すようにしている。これまでの検討で、暫定管理の内容と暫定診断の内容に大きな違いがないことや、実施した地区の学校現場から好評を得ていることから、17年度も暫定管理を継続していくことが確認された。

なお、打ち合わせ会に参加した専門医は次の各氏である(順不同、敬称略)。

- 村上睦美(日本医科大学名誉教授)、土屋正巳(同大学講師)、五十嵐徹(同大学)、伊藤文之(東京慈恵会医科大学教授)、白井信男(同大学)

また、本会では3年前より、検診日程の関係でプール授業が始まる6月上旬までに暫定診断が出ない地域では、できる限りプールを制限しないための一時的な措置として、3次検診で専門医による診察を受けた段階でプールの可否についての暫定的な管理区分を

出すようにしている。これまでの検討で、暫定管理の内容と暫定診断の内容に大きな違いがないことや、実施した地区の学校現場から好評を得ていることから、17年度も暫定管理を継続していくことが確認された。

なお、打ち合わせ会に参加した専門医は次の各氏である(順不同、敬称略)。

- 服部元史(東京女子医科大学学助教授)、橋本里(日本大学講師)、



「肝臓検診の実態と展望」をテーマに、小野良樹本会健康支援センター副センター長が講演する。司会は、野田労働衛生コンサルタント事務所の野田一雄所長。

会場の「星陵会館」は、地下鉄各線「永田町」国会議事堂前、「溜池山王」、「赤坂見附」駅下車、徒歩10分以内のところ。当日会場受付で、参加費2000円を支払えば、定員先着400名。



## 学童検診業務の必携システム!

### ECP-4641

医療器具承認番号:20800BZZ00230000

- 学童省略4誘導、標準12誘導、心音図を自動解析
  - 心電・心音図検査を60人以上/時間のスピードで処理
  - 不整脈自動延長機能を搭載(学校保健法施行規則に対応)
  - 内蔵フロッピー装置、ICカード装置で収録データの再生可能
  - 成人病検診にも活用可能
- ※解析プログラムは学校心臓検診2次検診対象者抽出ガイドラインに対応  
※検診業務に対応する専用パネル採用

フクダ電子ホームページ  
http://www.fukuda.co.jp

●医用電子機器の総合メーカー

フクダ電子株式会社

本社 東京都文京区本郷 3-39-4 TEL (03) 3815-2121(代) F 113-8483